



2021年
メルボルン国際映画祭
正式出品作品

エイドリアン・フランシス監督

東京大空襲の記憶

戦争は一夜にして我々の日常を奪う

その悲劇は紙や木で作られた街を襲った――

十万人を超える犠牲者を出した東京大空襲の生存者の最後の言葉を、オーストラリア人のドキュメンタリー映画監督がいま語り継ぐ。

遠く故郷を離れた地、日本。そこで出会った人々。
自国オーストラリアで教わることもなかった歴史とその真実を
映画監督が探求する姿を捉えた、心揺さぶるドキュメンタリー。

ScreenHub

実状を知る素晴らしい作品として戦争の惨事を伝え残してくださいました。
体験者は少なくなって参ります。私も90を目前にしています。
東京大空襲についてこの哀しみを心薄くなってしまっているように思われます。

海老名香葉子

日本人が忘れかけている東京大空襲の悲劇 3人の生存者の記憶と証言を、ひとりのオーストラリア人映画監督が見つめる

1945年3月10日午前0時過ぎ、アメリカ軍の爆撃機が東京を襲撃し、木造の家屋や多くの紙材が密集していた街に火の粉を浴びせた。日の出までに10万人以上の死者を出し、東京の4分の1が焼失した史上最大の空襲だった。この凄まじい記憶が今もなお生存者の脳裏に焼きついている。戦争や空襲の記憶が失われつつある今、未曾有の悲劇の体験を後世に残そうとする3人の生存者に肉薄する。本作は東京を拠点にするオーストラリア人映画監督エイドリアン・フランシスの長編ドキュメンタリー・デビュー作。この悲劇で私たちは何を記憶し、なぜ忘れようとしているのか。ロシアによるウクライナ侵攻から1年。戦争の影がしのび込んでくる今、生存者の体験と未来への思いを見つめる。

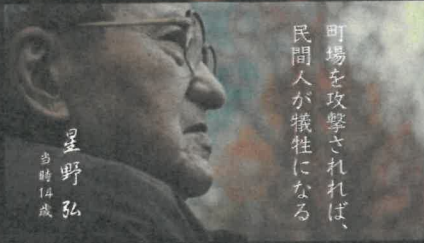
東京大空襲を知ったとき、私は東京に住んで数年が経っていました。その事実にはショックを受けたのを覚えています。しかし、歴史上最も破壊的な空襲の記憶が忘れ去られようとしていることが不思議に思えました。この街には、その時何が起こったのかという痕跡がほとんどなかったので、その理由を知りたいと思いました。生き残った人たちは、話したくないかもしれないとも考えましたが、そうではないことがすぐにわかりました。

— エイドリアン・フランシス監督



助かるのと
死ぬのと紙一重

浅草寺の近くで生まれ育つ。空襲により生家が炎に包まれる中、一家で近くの隅田川へと逃れた。次の世代の人々に空襲の恐ろしさを知ってもらうことに人生の全てをかけて活動してきた。



町場を攻撃されれば、
民間人が犠牲になる

空襲を受けた翌日の朝、押上などで死体で埋まった水路を目にする。憲兵隊は星野さんと同級生にその死体を水の中から引きずり上げる作業を命じた。



戦争というのは
やっちゃいけない

森下5丁目は軍の標的になるものがなかったのに、安全だと思い込んでいたが大きな間違いだった。空襲の夜、街が壊滅していく様子を間近で目撃し、3人の兄弟を含む多くの知り合いが命を落とした。

ペーパーシティ — 東京大空襲の記憶 出演：清岡美知子、星野弘、築山実 | 監督：エイドリアン・フランシス

エグゼクティブ・プロデューサー：ソフィー・ハイド | プロデューサー：メラニー・ブランド | 撮影：ブレット・ルデマン | 配給：フェザーフィルムズ | 配給協力：スリーピン
2021年 | 80分 | オーストラリア | 日本語・英語 | 英題：Paper City | 16:9 | 5.1ch | DCP | カラー/モノクローム | ドキュメンタリー | ステレオ © 2021 Feather Films Pty Ltd. Filmfest Limited



@papercitytokyo
公式サイト: papercityfilm.com

場所：明治大学 駿河台キャンパス グローバルホール
日時：2025/7/25 (金) 18:30~20:10
詳しくは、「明治大学 Worldwide」で検索 🔍